実用度満点！
125枚のイラストストーリー
もちろんテキスト無し
バージョンも収録！
合計250枚のCG集
海で開放的になった彼女達の
エッチなストーリーが見れるCG集
元巫女アイドルと海で
エロぷるっ！

俺はティ○ンサとプライベートビーチ来ている。
ティ○ンサが元いた巫女アイドルグループが、
彼女を交えて特別ライブをするという事で、
うちの団は一ヶ月ほど休暇を取った。

「団長さ～ん♪」

水着に着替えたティ○ンサが
向こうから小走りしてきた。
ティ○ンサの爆乳がプルンプルンと揺れている。
ティ○ンサが団に入って約一年、彼女の胸は
一年前とは比べ物にならないほど大きく成長したw

「見て～見て♪
団長さんが選んでくれた水着だよ♪
ちょと露出が多くて恥ずかしいけど、
今二人きりだし・・・
着ちゃった／／」

「ティ○ンサの水着姿カワイイよ（エロい）！」

俺は持ってきたカメラでティ○ンサを撮りまくった。

「ティ○ンケのキレイな桃尻も凄くいいよ！」

俺はティ○ンケの後ろに廻って、桃尻も揺りまくった。

「も～団長さんのエッチ。
そんなにお尻ばかり撮られると恥ずかしいよぉ／／／」
ティ○ンサは恥ずかしそうにしながら
桃尻を手で覆い隠した。
「ごめんごめん♪
ティ○ンサのお尻が余りにも魅力的だから、
つい撮るのに夢中になっちゃったよw
じゃあ泳ぼうか。」
「うん～夜はライブがあるから、
今のうちにいっぱい泳ぼ～」
二時間ほどティ○ンサと二人きりで泳んだ。

「ふぅ・・・丁度の昼だし、ちょっと休憩しようか。」
かなり激しく動いたのでティ○ンヤも
少し息が上がっている。
「ハァハァ♪
そうだね。実はサンドイッチ作ってきたんだ。」
ティ○ンヤが作ってきたサンドイッチを一人で食べた。

昼食を食べ終わったので、俺はティ○ンサに頼みごとをした。

「ねえ、ティ○ンサの裸をこっそり撮らせて！」

「えっ、こっそり！
他に誰もいないけど、
流石にこっそり裸になるのは恥ずかしい・・・
それに、団長さん夜にいつも私の裸みてるじゃない！！！」

ティ○ンサは俺の提案に驚き戸惑っている。

「ほらこのパネル越しなら大事なとこも隠れるし！
お願いします！撮らせて！」

俺はパネルを持ってきて、砂浜に置いた。
パネルには所々大きな穴が空いている。

「うう・・・わかった。
団長さんの頼みだし・・・
そのかわりキレイに撮ってね。」

ディ○ンヤは顔を赤らめながら渋々了承した。

ティ○ンサはパネル越しに水着を脱ぎ始めた。
「ティ○ンサこっちにお尻向けて脱いでー」
「こ・・・これでいい？
全部は見えてないよね・・・」
パネル越しにティ○ンサの裸尻が見える。

「パネル越しで見えないっこも、
やっぱり外で脱ぐのは恥ずかしい／／」
ディ〇ンサガ下の水着を脱いでいるが、
大事な部分はちゃんと隠れている。
「大丈夫ちゃんと大事な部分は見えてないよー」
僕はディ〇ンサの脱衣をカメラで撮りまくったw
「あん・・・脱ぐとこまで撮らないでぇ／／」
ドキー
ドキー
プリン♥

実は砂浜にビデオカメラを埋めていて、
ディ○ンケの大事なところまでばっちり映っている。
よく見ると水着に黄色いシミが付いていた。
もちろんこれはディ○ンケと遊んだ後に回収して、
夜に確認した。
ドキ〜
ドキ〜
プリン♥

「団長さん・・・キレイに撮ってこね～」
水着を脱いだティ○ンケは恥ずかしそうにしながら、
パネル越しに手を振る。
「おお！パネル越しにティ○ンケの裸が！」
俺はパネル越しとはいえ、
ティ○ンケの裸を撮りまくった。
ドキ♥
ドキ♥
プルン♥

もちろん砂浜に埋めた隠しカメラには、
ディ○ンヤの裸がばっちり映っていた。
たわわに実った二つの果実と、
少し濃い陰毛までバッチリ見えている。
ドキ♥
ドキ♥
プルン♥

ティ○ンサも裸を撮られることに慣れてきたようだ。

「ティ○ンサこのパネルどかしていい？」

「えっ・・・うんいいよ／／／団長さんと二人きりだし大丈夫だよね♪」

パネルをどかすと、一糸纏わぬティ○ンサの姿が丸見えになった。俺は夢中でティ○ンサの裸を撮り続けた。

しばらくすると、
ティ○ンサがモジモジしだした。
「ん・・・ティ○ンサどうかしたの？」
「団長さん・・・ハァハァ・・・
お花摘みに行ってきていい？／／」
ティ○ンサは顔を真っ赤にしながら言った。
「だいぶ溜ったし、今日は終わりにしようか。
ティ○ンサ行ってきていいよ。」
近くにトイレもないので、
ティ○ンサは向こうの岩場まで、
急ぎ足で向かっていった。

俺はビデオカメラを取り出し、
ディ○ンサに気付かれないように後をつけた。
ディ○ンサは岩場の影に隠れ、
辺りを見回してからしゃがんだ。

「あ～ん、早くしないと漏れちゃう！
ここなら、団長さんからは見えないよね。」

俺はカメラを構え、ディ○ンサの桃尻を撮りはじめた。

ヒクヒクしていたティ○ンサのオマンコから、
勢い良くおしっこが出始めた。
「ホッ♪あん、おしっこいっぱい出てる♪
ずっと我慢してたから凄く気持ちいい♪」
ティ○ンサはうるうるきょとな表情でおしっこを出し続けている。

アナルがヒクヒクと動いた直後、
ディ○ンサは大きなオナラをした(w
「あ～ん♪オナラまでちゃった♪
ん・・・ちょっとクサい。
最近便秘ぎみのせいだよね。」
ディ○ンサのオナラは、
隠れて撮影している俺の所まで臭ってきた。
(うおっ鼻が曲がりそうなほどクサい!
これはかなりうんちが溜めこんでるなw)

ティ○ンサはおしっこを出し終わったようだ。
足元にはおしっこの水溜りができている w

「ふぅ♪スッキリした♪
きたライブまで時間あるし、
団長さんといっぱいラブラブしなきゃ♪」

この後ライブの時間まで、
ティ○ンサと二人きりで過ごした。

「団長さ～ん♪
早く私のオマンコにパコパコしてぇ♪」
ライブ終了後、
ディ○ンサは俺の部屋のベッドの上で、
はしたなく足を開き股間を露にしている。
ディ○ンサは三日に一度は
俺の部屋に来てセックスをしている。
「早くぅ♪団長さんの逞しいデカチンポでオマンコ
じゅぼじゅぼしてほしいのぉ♪」
ディ○ンサのファン達は
彼女のこんなにエロい姿想像もしてないだろうw
あん♥
プルン♥
ガバッ♥

俺はティ○ンサの
オマンコにチンポをぶち込んだ。
「あん♪団長さんのデカチンポ入ってきたぁ♪」
「相変わらずティ○ンサのオマンコは最高だよ！
それにしても、この一年でおっぱい
かなり大きくなったよな。
ティ○ンサファンもその爆乳に
目が釘付けだったぞw」
「あん♪団長さんに揉まれて大きくなったんだよ♪
ああん♪団長さんにおっぱい揉まれるの
すごく気持ちいい♪」
あん♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
ズブッ!!
パン♥パン♥

俺の我慢汁とオマンコの愛液と
チンポが濡れ濡れになっている。
「あん♪もっと奥まで突いてほしいのぉ♪」
「お望みどおり、激しく突いてやるよ！」
俺は更に腰を早く動かし始めた。
「あっあっあぁん♪気持ちいいよぉ♪
団長さんのオチンポが私の子宮をノックしてるぅ♪」
あん♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
トロォ～♥
パン♥パン♥

「ハァハァ・・・ティ○ンヶ
このまま膣内に出すぞ！」
俺はティ○ンヶの膣内に
大量のザーメンを注ぎ込んだ。
「あぁん♪部長さんのオチンポミルク
いっぱい子宮に入ってきてるぅ♪」
あん♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
ドプッ!!
パ・・パ・・♥

チンポを引き抜くと
ディ○ンサのオマンコから
ザーメンが溢れ出てきた。
「ハア・・・ハア♪
団長さんのオチンポミルク
溢れてきてるぅ♪
あぁん♪もったいないよぉ♪
団長さんのオチンポミルクをもっと
私のオマンコにいっぱい注ぎ込んでぇ♪」
結局この後3回膣内出しした
あん♥
ハア♥
ハア♥
プルン♥
ドロォ～♥

今日も裸のティ○ンヴを撮影している。
ただし今日のパネルはこちら側からは、
透けて見える特殊な物だw
「今日は胸の所に穴が空いてるんだ・・・
おっぱい丸見えこちょっと恥ずかしい／／」
おっぱいどころか、
全てが丸見えなのにティ○ンヴは知らないw
「恥ずかしがることないよ。
ティ○ンヴの胸どこもキレイだよ！」
ニコ♥
プルン♥

「可愛さん～このポーズどういい？」

「いいよ～そのポーズのまま笑って！」

ディ○ンサも慣れてきたようで、

ノリノリで色々なポーズをとってくれる。

撮影終了後、俺達は昼食休憩をとった。

昼食後は二人で遊ぶ事にした。

「団長さ～んいくよ～♪」

「おっと！」

今は二人でビーチバレーをしている。
砂浜でおっかけっこをしたり、
水をかけあったりとけっこう激しく動いたので、
ティ○ンサの体中から汗が流れている。

しばらく遊んでいると、
ティ○ンサは体をモジモジさせ始めた。
「ティ○ンサどうしたの？
ちょっと動きが不自然だけど？」
「だ、大丈夫だから・・・もっと遊ぼ！」
どうやら巨食の時飲み物に、
薄めた下剤を混ぜておいたのが効き始めたようだw

ティ○ンツは更に下半身をモジモジさせ始めた。
「ハァ・・・ハァ。」
(お腹が凄く痛いよぉ・・・
浜辺にお外でうんちするのは恥ずかしいよ／／)
プリン♥
モジ♥
モジ♥
んん♥
ハァ♥
ハァ♥

「ティ○ンウ?トイレ我慢してるんじゃないの?」
「だ、だいじょう・・・・あっダメ!」
ティ○ンウは大きなオナラをした。
(くすん・・・団長さんに私のオナラの音聞かれちゃった。
恥ずかしくて中にそうだよぉ////
あっ今ので少し漏れちゃったかも・・・)
ブピー
ブゥ〜
プリン
あぁん
ハァ
ハァ

「ティ〇ンサ?いまオナラ・・・」
「あぁん♪言わないでぇ!」
(やばいよぉ・・・うんち少し漏らしたのも
そのうちバレちゃう!
恥ずかしいけど「お花摘み」って入って
向こうの岩場で全部出して、水着も洗わないと!)
プリン♥
じわっ♥
モジ
モジ
あん♥
ハァ♥
ハァ♥

「だ、団長さん。わ、私お花摘みに行ってくるね。」
「あ、ああ行っておいでw」
「す、すぐ戻ってくるから！あっまた出ちゃう！」
ディ○ンサはオナラが出続けるお尻を手で押さえながら、おもいっきり内股で岩場まで回かっていった。
もちろん俺はカメラを持って、ディ○ンサの後をつけた。

岩場まで来たティ○ンケは辺りを見回した。
「ハァ・・・ハァ・・・
ここなら大丈夫だよね。
うう・・・お尻気持ち悪い・・・」
ティ○ンケの水着に
茶色と黄色のシミがついているのが
はっきりと見える。
(なるほど、少し漏らしちゃったのかw
とうりで手でお尻を押えるわけだ。)
キョロ
キョロ
ハァ
ハァ
ブヲ～
プリン
じわっ
モジ
モジ

俺はティ〇ンサをビデオカメラで撮り続けた。
「あのん・・・くすん。
やっぱりうんちが少しついちゃってる。
後でキレイに洗わないと・・・」
ティ〇ンサが水着を脱ぐと
うんスジがべっとりと付いている
しかもアナルにはまだうんちが
こびり付いているのが見える
あん♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
ベットリ♥

下の水着を脱ぎ終わった直後、
アナルから少量のうんちが飛散り始めた。
「あっダメー出ちゃいそう!」
ティ○ンウはのわっとしゃがみ、
うんちを出す体勢をとった。
ブピピー
プリン♥
あん♥
ハァ♥
ハァ♥

「んん！
ハァ・・・ハァ・・・ふん！
あと少し・・・・」
ディ○ンサガキバり始めると、
直くにアナルが広がり
大きなオナラと一緒に
極太うんちが顔を覗かせ始めた。
ぶん!!
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
ムリ♥
ムリ♥
ブス～♥

「ハァハァ♪
うんちしたぁ！
ああん♪一週間ぶりのうんち気持ちいい♪」
ディ○ンサは恍惚の表情を浮かべながら、
極太一本糞をヒリ出しはじめた。
まさか一週間も便秘してたとは思わなかったw
あん♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
ブリ♥
ブリ♥
ブリュリュリュ♥

「はあ～気持ちいい♪
おしっこもしちゃお・・・
ん？」

俺はもっといい角度で撮ろうとして
つい音を立ててしまった。

「誰かそこにいる？」

俺は開き直ってティ○ンサのに姿を見せた。

「うそ！団長さん！」

ティ○ンサはすごく驚いている。

「実はディ○ンサの脱糞をこのカメラで撮ってたんだw」

俺は正直に告白した。

「ああん・・・こんなと撮らないでぇ！ああんーうんち止まらないい！」

流石に一週間ぶりの極太うんちは一度で出しきれず止まらないようだw

ディ○ンサはオナラをしながら極太一本糞をヒリ出し続ける。

「ディ○ンサの脱糞姿すごくエロいよ！」

俺はカメラを回し続けた。

「ああん！撮っちゃダメぇ！」

ディ○ンサは顔を真っ赤にして叫んでいる。

やっと極太うんちを
ヒリ出し終わったようだ。
ティ○ンサの足元には
山盛りのうんちが積み上がっているw
「凄い量のうんちをヒリ出したねw
一週間も溜め込んでると
こんなに出るんだねw」
「くすん・・・同僚さんのヘンタイ・・・
うんちしてるとこ撮られるなんて、
恥ずかしすぎるよぉ///」
プリン♥
ベトォ♥
モリ♥
モリ♥
ハァ♥
ハァ♥
ぐすん…

「俺がティ○ンケのお尻キレイにしてあげる。」

俺はティッシュを取り出しティアンケのアナルに付いていたうんちを拭き取り始めた。白いティッシュがみるみる茶色く染まっていく w

「あぁん、自分でやるから！
あん♪アナルに押し付けないでぇ！
あん♪あふん♪」

（あぁん♪ティッシュ越しに指でアナル弄られてるぅ♪
団長さんにお尻拭いてもらうのすごく気持いい♪）

「よし！うんち全部拭き取ったよw
いつものキレイなティ〇ンサの桃尻だw」
「うう、団長さんのバカァ♪
恥ずかしいからそんな事言わないで／／／」
「こもティ〇ンサ、俺に
お尻拭かれてるとき感じてたでしょw」
「それは・・・そうだけど・・・・
団長さん、お尻拭いてくれてありがと♪」
プリン♥
モリ♥
モリ♥
ハァ♥
ハァ♥
あん♥

ディ○ンサが丸一日オフという事で、
5日ぶりにプライベートビーチに遊びに来た。
「団長さ～ん。着てきたよ」
ディ○ンサは少し恥ずかしそうにしながらこっちに来た。
今日の水着が胸の部分が透けていて、
乳首が丸見えになっているw
ドキー
ドキー
プルン

「おお！ティ○ンサの乳首が透けて見えて凄くエロいよw」
「もぉ～こんなエッチな水着用意するなんて、
団長さんのエッチ♪
こんなエッチな水着団長さんの前しか着ないんだからね～」
ドキー
ドキー
プルン♡

「団長さ～ん～こっちこっち～」

昼食後、俺はティ○ンサと砂浜でおっかけっこをしている。
乳白丸見えの爆乳がプルンプルン揺れている。
この光景を見ているだけで、
俺の下半身がテントを張っているw

「早くつかま・・・
あっ出ちゃう！」
おっぱいっこをしている最中に、
ティ〇ンサは大きなオナラをした。
「あいかわらず
ティ〇ンサのオナラの音は凄いなw」
「あん♪私の恥ずかしい音聞かないでぇ♪」
あん♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
プルン♥
ブウ～♥

俺は素早くティ○ンサの後ろに回り、
下半身を掴んで桃尻に顔を埋めた。
「さあ！もう一度オナラ出してw
ティ○ンサのオナラの臭い俺に嗅がせて！」
「いやぁ！お尻に顔埋めないでぇ！」
ティ○ンサは顔を真っ赤にしながら叫ぶ。
あん♥
プリン♥
ムギュ～♥
モジ♥
モジ♥

「あっダメっ！出ちゃう！」
ティ○ンサは大きなオナラをしたw
「すうううー！クンカクンカ♪
うおっクサっ！
ティ○ンサのオナラ凄くクサくて
香ばしい臭いがするよw」
「いやぁ！臭い嗅がないでぇ！
くすん・・・
恥ずかしくて死にそうだよ・・・」
（このクサさは・・・
また何日も便秘してるなw）
ぐすん♥
クンカ♥
クンカ♥
ブウ～♥
プリン♥
ムギュ～♥

「オナラかなり臭かったけど、
ティ○ンサ何日便秘してるの？」
「うう・・・み、3日です・・・
あっまた出ちゃう！」
ティ○ンサはオナラをしながら
俺の質問に答えた。
「じゃあ向こうの岩場で出そうか。
もちろん俺も一緒に行くけどw」
「ウソ・・・団長さんも来るの！
そんなのダメっ！
恥ずかしすぎるよ／／」
あん♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
ブク～♥
モジ♥
モジ♥

「ほら、一度全部見ちゃってるし、今更恥ずかしがらなくてもいいよw」

「うう・・・何度見られても恥ずかし・・・あっまたこちゃう！」

ディ○ンサのオナラの音が更に大きくなった。股間の水着が少し黄色くなった。

「ハァ・・・ハァ♪もう限界かも・・・団長さんも来ていいから・・・早く行こ！」

限界が近いようで、ディ○ンサは俺の手を引っ張りながら岩場へ向かった。

岩場きてくると、
ティ○ンサは下の水着を脱ぎ始めた。
水着には尿スジと
うっすらとうんスジが付いている。
アナルも少しだけうんちが漏れ出しているw

「すうううー!クンカクンカ♪
うおっクサっ!
ティ○ンサのお尻の穴に
ちょっぴりうんちがついてるよw」

「うそっ!ダメっ団長さん!
見ないでぇー
臭いも嗅がないでええええ!」

ほんとにちょっぴり付いているだけなので、
ティ○ンサも気づいていなかったようだw

俺はそのままティ○ンサの桃尻を掴み、
顔の真上にしゃがませた。
顔にティ○ンサの尻圧を感じるw
俺は口をティ○ンサのオマンコにあてがった。

「よし！俺にティ○ンサの
おしっこを飲ませてくれ！」

「うう、団長さんのヘンタイ・・・
うんちも出そうなのに
おしっこだけなんてムリだよ」

「ティ○ンサならできるさw
さあ、早くティ○ンサのレモンティー飲ませて！」

「うう・・・恥ずかしくて死にそう／／」

「んん・・・団長さん、おしっこ出すよ。」
ディ○ンサは顔を真っ赤にして、おしっこを少しずつ出し始めた。
「ゴクゴク！ディ○ンサのレモンティー凄く美味しいよ！」
「くすん・・・団長さんに私のおしっこ飲まれてる・・・恥ずかしすぎるよぉ////」
プリン♥
ジョワ〜〜♥
ゴクゴク♥
ハァ♥
ハァ♥
んん♥

「んん・・・もうすぐ出し終わるとこ。
ふん・・・んん！あっダメっ！」
ディ○ンサが最後のおしっこを出そうと
力を入れると、オナラまで一緒に出たw
「ゴクゴク！クンカクンカ♪
ディ○ンサのオナラの臭い付きレモンティー
最高に美味い！」
「恥ずかしすぎるよぉ／／／
それより団長さん！はやく顔退けて！
うんちでちゃうう！」
顔を退けやすいように、
ディ○ンサは少しお尻を上げた。
プリン♥
ブゥ～♥
ジョロロロ♥
クンカ♥
クンカ♥
ゴクー
ゴクー
ハァ♥
ハァ♥
んん♥

「んん・・・あぁん
うんちでちゃうぅ♪」
お尻から顔を退けると、
ティ○ンサ直ぐに脱糞し始めたw
「おお、ティ○ンサの脱糞姿エロいよw
きさがあのティ○ンサが、
こんな極太うんちヒリ出すなんて
夢にも思わなかったよw」
「ああん♪そんな恥ずかしいこと言わないでぇ！
また団長さんに私のうんち見られるなんて、
恥ずかしすぎるよぉ////」
プリン♥
ブリブリ♥
ブリュリュリュ♥
ハァ♥
ハァ♥

「ハァ・・・ハァ♪
うんち全部だしたよ♪」

ティ○ンサの足元には
大量のうんちが積み上がっている。

「今日もいっぱいヒリ出したねw
じゃあ俺がお尻についてるうんち
拭いてあげる。」

「恥ずかしいけど///
キレイに拭いてくださいね♪」

ティ○ンサは少し嬉しそうに返事した。

俺はティッシュを取り出し、
ディ○ンサのお尻の穴についたうんちを
丁寧に拭き取り始めた。

「あん♪あふん♪
気持いい・・・♪」

俺はティッシュ越しに指で、
ディ○ンサのアナルを弄った。

「お尻拭いてるだけなのに、
ディ○ンサ感じてるのかなw」

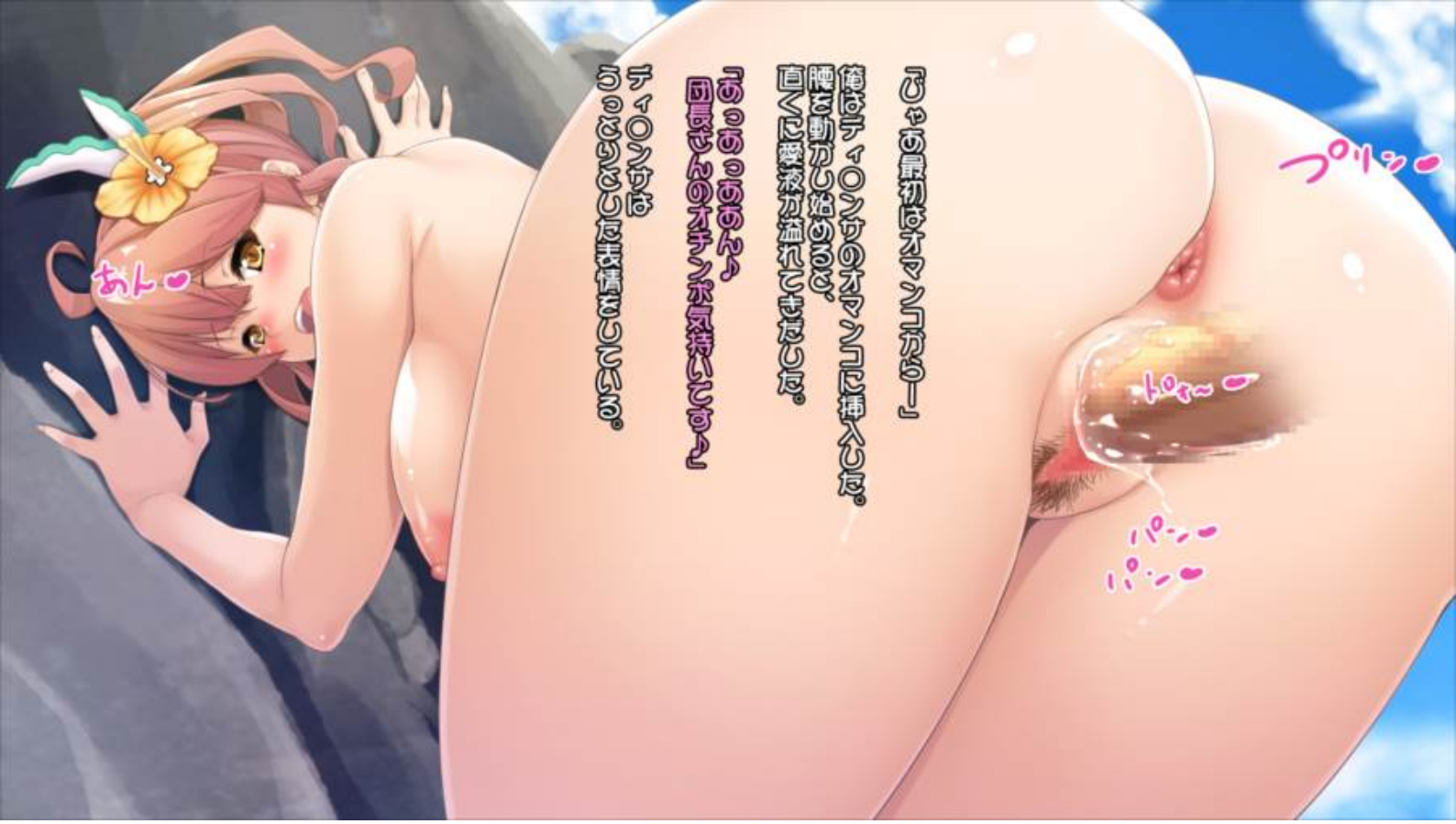
「あん♪だって団長の指が・・・
あふん♪弄っちゃダメぇ♪」

「よし！お尻もキレイになったし、
そこの岩に手を付いてお尻をこっちに向けて。」

「こ・・・これでいい？」

ティ〇ンサは俺の言うとおりにした。
俺の目の前には無防備に突き出された、
ティ〇ンサの大きな桃尻が見える。
オマンコもアナルも丸見えだw

「この格好・・・ちょっと恥ずかしいです／／」


「じゃあ最初はオマンコから～」
俺はティ○ンサのオマンコに挿入した。
腰を動かし始めると、
直ぐに愛液が溢れてきだした。
「あっあっあああん♪
団長さんのオチンポ気持いいです♪」
ティ○ンサは
うっとりとした表情をしている。
プリッ♥
トロ～♥
パン♥
パン♥
あん♥

「よしー！ティ○ンサ膣内に出すぞー！
今日の一番絞りザーメンだ！」

俺はティ○ンサの膣内にたっぷり射精した。

「ああん♪
団長さんのオチンポミルクが
私の膣内にいっぱい入ってきるぅ♪」

ティ○ンサのオマンコは
キュウキュウと締め付け、
俺のザーメンを搾り取っているw。

「じゃあ次は始めてのアナルセックスしようか。」

「えっそんな汚い所に入れるなんて・・・
ダメだよ！」

俺は戸惑っているティ○ンサを無視して、
アナルにチンポを一気に挿入した。

「あああん・・・気持ちいいよぉ・・・
あっあふん♪
オチンポお尻から・・・
あああん♪抜いてぇ♪」

ティ○ンサは嫌がりながらも感じ始めているようだ。
その証拠に腸液が大量に溢れてきて
アナルセックスの潤滑油になっているw

「こっ、ティ○ンケのアナル凄いしまりだ。
このまま出すよ！」

「あっ、あん♪あん♪
お尻に出しちゃダメぇ♪」

俺はティ○ンケの腸内にザーメンを注ぎ込んだ。

「あぁん♪お尻の穴にオチンポミルクだされちゃった。
あん♪お腹の中が熱い・・・♪」

「ハァハァ♪あっあっあぁん♪
アナルセックス気持いいよぉ♪」

あれから俺はチンポを抜かずに腰を動かし続けた。
2度目の射精を終え、
今まさに3度目の射精をするところだ。

「ティ○ンサこれで最後だ！」

俺はありったけのザーメンを
ティ○ンサの腸内に注ぎ込んだ。

「はあぁん♪　オチンポミルク入ってきてるぅ♪」

ティ○ンサはアナルセックスに目覚めたようだw

チンポを抜くと、広がりきったアナルから
ザーメンがのぶれ出した。

「ハァハァ♪私のアナル・・・
団長さんのオチンポの型に広がっちゃった♪
あっダメ！」

アナルセックスの余韻に浸っていた矢先、
ディ○ンサのアナルから大きなオナラがでた。
どうやら俺のザーメン浣腸でお腹が刺激されたようだw

「ああん♪オナラ止まらないよぉ♪」

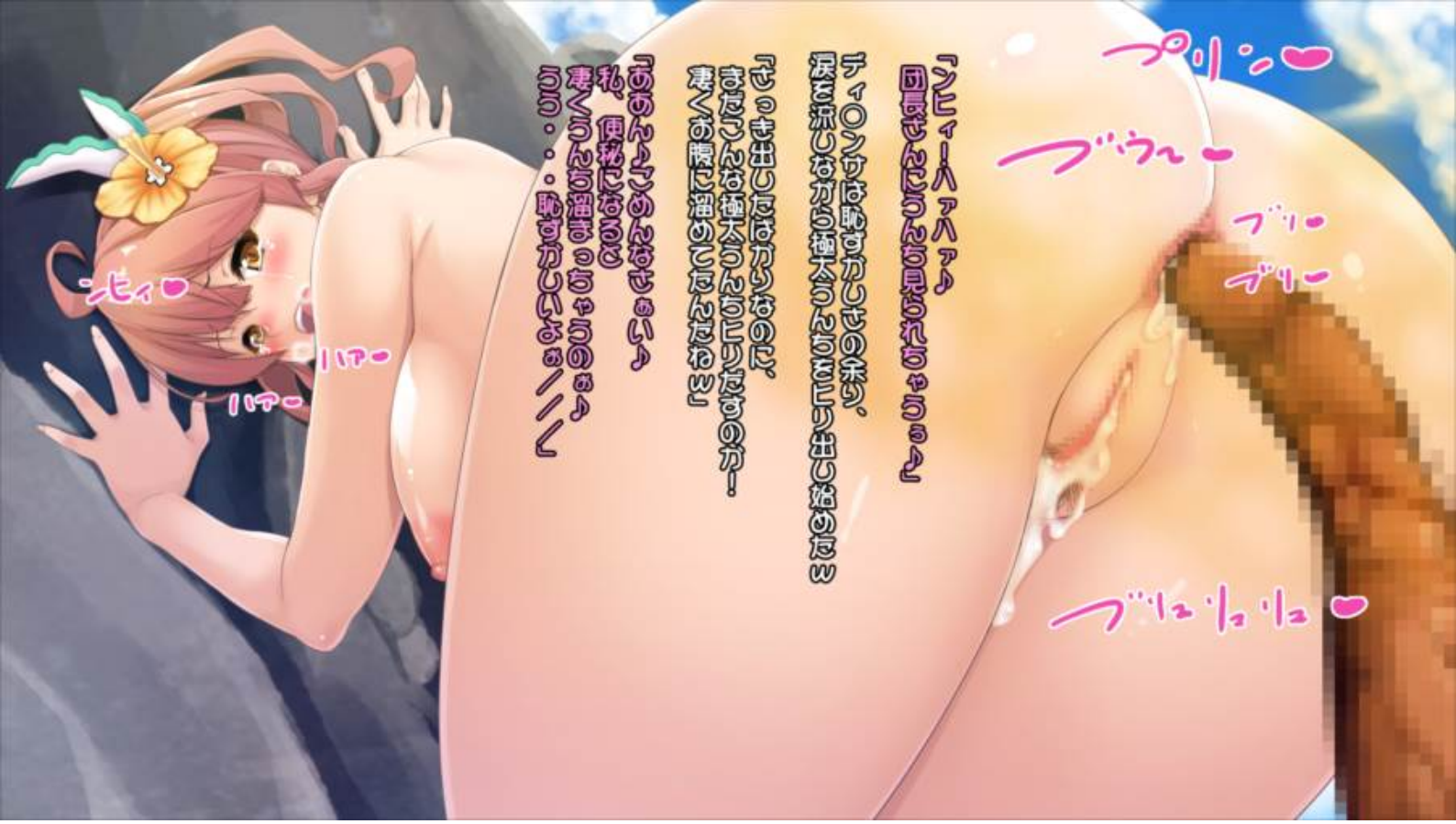
チンポを抜くと、広がりきったアナルから
ザーメンがのふれ出した。

「あぁん♪ハァハァ♪
出ちゃう！うんち出ちゃうううう！
団長さん見ないでぇ！」

もう2回ほど俺の前で脱糞してるのに、
やっぱり見られるのは恥ずかしいらしいw

「ティ○ンケのアナルから
すっごい極太うんちが出そうだよw」

「あぁん♪そんな恥ずかしい事言わないでぇ！
団長さん、私のうんち見ないでぇ！」


「ンヒィーハァハァ♪
団長さんにうんち見られちゃうぅ♪」
ティ○ンケは恥ずかしさの余り、
涙を流しながら極太うんちをヒリ出し始めたw
「さっき出したばかりなのに、
まだこんな極太うんちヒリだすのか！
凄くお腹に溜めてたんだねw」
「あぁん♪ごめんなさぁい♪
私、便秘になると
凄くうんち溜まっちゃうのぉ♪
うぅ・・・恥ずかしいよぉ///」
プリッ♥
ブゥゥ♥
ブリッ♥
ブリッ♥
ブリュリュリュ♥
ンヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥

「ハァハァ♪
団長さんに見られてるのに、
うんち止まらないのぉ♪」

ティ○ンサは極大うんちをヒリ出し続けている w
途中からおしっこまでしはじめた。

「あ～あぁうんちヒリ出しながら、
おしっこまでしはじめちゃったよぉ w」

「ハァハァ♪アヘ♪
ごめんなさぁい♪
おしっこもうんちも止まらないのぉ♪
でも、団長さんに見られながらうんちするの・・・
気持いいかも♪」

ティ○ンサは見られながら脱糞することに
快感を覚え始めたようだ w

あれから2日後
ライブ終了後に、ディ○ンサが
俺の部屋にやってきた。
いつものようにベッドの上で
ディ○ンサとセックスをしている。
「あん♪団長さんのオチンポミルク
いっぱい注がれてるぅ♪」
あん♥
プルン♥
ドプッ!!
パ♥パ♥

ディ〇ンサのオマンコからは精液が溢れている。
「団長さん・・・お尻の穴にも
オチンポミルクください／／／
この前のアナルセックスが気持ちよすぎて・・・
忘れられないの／／／」
ディ〇ンサは恥ずかしそうにしながら
アナルセックスを求めてきたw
「ディ〇ンサすっかり
アナルセックスの虜だなw」
「はい／／／
私、団長さんのおかげで
アナルセックス大好きになっちゃいました♪」
あん♥
プルン♥
ドロォ～♥

俺はティ○ンケのアナルに挿入した。
腰を動かし始めると、直ぐに腸液が溢れてきたw
「ああん♪お尻の穴に
団長さんのオチンポ入ってきたぁ♪
ハァ・・・ハァ♪
むちゅ～♪」
ティ○ンケはアナルセックスに喜びながら
俺に唇を重ねてきた。
「はむっんん♪レロレロ♪」
「はむっんん♪むちゅ～♪
レロレロ♪ろろぉ～♪
ハァ・・・ハァ♪
キスしながらアナルセックス気持いい♪」
あん♥
レロ♥
レロ♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
ズブッ!!
ドロォ～♥
パン♥
パン♥

「ハァ・・・ハァ♪
ティ○ンサーアナルに出すよ！」
俺はティ○ンサのアナルに
ザーメンを注き込んだ。
「はああん♪
団長さんのオチンポミルク、
お腹の中に入ってきてるぅ♪」
あん♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
ドプッ!!
ドロォ～♥

2時間後
何度も射精し、ティ○ンサの下半身は
俺のザーメンがベットリと付着している。
「ハァ・・・ハァ♪
これが最後の射精だ！
ティ○ンサ！しっかり受け止めて！」
俺はティ○ンサのアナルに
ザーメンを注ぎ込んだ。
「ハァ・・・ハァ♪
オチンポミルク入ってきてるぅ♪
ああん♪気持いいよぉ♪」
あん♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
ドプッ!!
ベットリ♥

チンポを引き抜くと
ディ○ンサの開ききったアナルから
ザーメンが溢れ出す。
アナルがヒクヒクと何度か収縮を繰り返すと、
ディ○ンサは大きなオナラをしはじめたw

「団長さん、
お花摘み行ってきていい？
うんち漏れそうなの////」

「ダメだよ！
ディ○ンサの恥ずかしい脱糞姿俺に見せてw

「うう・・・団長さんのヘンタイ♪
恥ずかしいけど////
ここでするね♪」

恥ずかしがりながらも俺の提案を了承した。
ディ○ンサも俺が見ている前で
脱糞することに慣れてきたようだw

「司長さん、
今から出すから見てこね？
ふん！んん！」
ディ○ンサはオナラを出しながらキバりはじめた。
広がったアナルから
極太うんちが顔を覗かせ始める。
「ふん！・・・・
あと少し・・・・・」
ディ○ンサがオナラをする度に、
少しずつヒリ出てくるw
んん!!
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
ベットリ♥
ブウ～♥
ムリ♥ムリ♥

「ふんー団長さんー
うんちできましたぁ♪」
ディ○ンサはブリブリと勢いよく、
極太うんちをヒリ出し始めた。
「アヒィ♪
うんち出すの気持ちいいよぉ♪」
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
ブウ～♥
ベットリ♥
ブリュリュリュ♥

ティ○ンサは極太うんちを
ヒリ出し続けているw
シーツの上に、
ティ○ンサの極太うんちが
どんどん積み上がっていくw
「ティ○ンサの脱糞姿凄くエロいよ！
これはご褒美だ♪むちゅ～～♪」
俺はティ○ンサに唇を重ねた。
「むちゅ～～♪レロレロ♪
キスしながら脱糞するの気持いい♪
むちゅ～～♪んむ・・・レロレロ♪
あん♪気持よすぎて、おしっこちゃうう♪」
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
モミ♥
モミ♥
ブウ～♥
ベットリ♥
ブリュリュリュ♥

夏限定特別ライブも2週間が過ぎた。
今日はディ○ンサの他に
メンバーのハリ○も
プライベートビーチに来ている。
この特別ライブの間、
俺は密かにディ○ンサ以外の
メンバーも調教していたw
二人は際どい水着を着て、
その桃尻で俺のチンコを挟んでいる。
「ああ、二人の桃尻凄く気持ちいいよ！」
「うふふ♪団長さん♪
私達のお尻に挟まれて気持いいんだ♪」
「団長さんのオチンポ
もうこんなに大きくなってる♪」
ニヨ♥
ニヨ♥
プルン♥
プルン♥
ムギュ♥
ムギュ♥
プリン♥

二人はノリノリで俺のチンポを
桃尻で挟み続けている。
「あん♪団長さん♪
さっきよりオチンポ大きくなってる♪」
「団長さん♪
ホントお尻好きですね♪」
ニコ♥
ニコ♥
プルン♥
プルン♥
ムギュ♥
ムギュ♥
プリン♥

「あん♪団長さん♪
もう我慢汁でちゃってるぅ♪」
「団長さん♪
オチンポビクビクしてるぅ
まだ出しちゃダメですよ♪」
いつもは従順な二人が、
いつになくSっ気たっぷりな表情をしている。
ニヨ～
ニヨ～
プルンッ
プルンッ
ムギュー
ムギュー
プリン

「もうムリ！限界だよ！」
俺は二人の桃尻に射精した。
「ああん♪団長さんのオチンポミルクいっぱい出ちゃってるぅ♪」
「あん♪お尻で擦られてイっちゃうなんて団長さんのヘ・ン・タ・イ♪」
ニコー
ニコー
プルンッ♥
プルンッ♥
ビュルル!!
ムギュー
ムギュー
プリン♥

二人の桃尻には俺のザーメンがベットリと付着している。
射精後なのに、俺のチンポは勃起したままだ。
「あん♪団長さんのオチンポまだ大きいままビクビクしてるぅ♪ほら♪もっとオチンポミルク搾り出してよ♪」
「私達のお尻にあれだけザーメンぶっかけたのに、まだオチンポは元気ですね♪団長さんのゼ・ツ・リ・ン♪」
二人はSっ気たっぷりの笑みを浮かべ、桃尻で俺のチンポを搾り続けている。
ニヨ♥
ニヨ♥
プルン♥
プルン♥
ムギュ♥
ムギュ♥
ベトォ～♥
プリン♥

「くっ！気持ちよすぎて・・・出すよ！」
俺は大量のザーメンを射精した。
「ハァハァ♪団長さんのオチンポミルクいっぱい出てるぅ♪」
「ハァハァ♪いっぱい出しましたね♪団長さん♪」
ニコ♥
ハァ♥
ハァ♥
ニコ♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
プルン♥
ビュルル!!
ムギュ♥
ムギュ♥
ベトォ～♥
プリン♥

尻コキが終わると、
二人は水着を脱ぎ、
その爆乳と俺のチンポを扱きはじめた。
「うふふ♪団長さん♪
今度は私達の胸で扱いてあげる♪」
「団長さんのオチンポ
また大きくなってる~♪」
「うおお、気持ちよすぎる！
気を抜いたら直ぐにイッてしまいそうだよ。」
ニヲ
モミ
モミ

「わあ♪団長さんのオチンポ♪
ビクビク脈うってる♪」
「あはっ♪団長さんのオチンポ♪
すごく大きくなってます♪
もっと気持ちよくしてあげますね♪」
二人は爆乳をたぷたぷに使い、
俺のチンポを丹念に扱き続ける。
ニヲ
モミ
モミ

「くうっ！気持ちよすぎる！」
「あん～我慢ナシ。ぱい出ごろ～」
「あはっ～♪同時さんのもつイキそうなの～
我慢しなくていいんですよ～」
俺は限界に達しようとしていた。
あん♥
トロッ～♥
モミ♥
モミ♥

「もう限界！ティ○ンが！
ハリ○！出すよ！」
俺は空に向かって真上に射精した。
「あん♪オチンポミルク♪
ピュルピュルって出てる♪」
「あはっ♪凄く跳んでる♪」
あん♥
トロッ～～
ドピュ!!
モミ♥
モミ♥

「あはぁ♪あんなに射精したのに♪
団長さんのオチンポまた勃起してるぅ♪」

「あん♪団長さんのオチンポ
元気すぎですぅ♪」

二人はうっとりとした表情で
パイズリを続けている。

「ハァハァ♪二人のパイズリが気持ちよすぎて、
勃起が収まらないんだよぉw」

「ハァハァ♪うっ！
もう出る！」
「あん♪オチンポミルク出てるぅ♪
この臭いたまらなく好きぃ♪」
「あん♪団長さんのオチンポミルクの
臭い嗅いでいたら、
私すごくエッチな気分になっちゃいます♪」
二人俺の射精に喜んでいるw
あん♥
トロッ～～
ビュルル!!
モミ♥
モミ♥

2度の射精と二人の顔には
俺のザーメンがベットリ付着している。

「レロレロ♪団長さんのオチンポの味♪
凄く美味しい♪」

「あん♪ティ○ンサズルいー私も♪
レロレロ♪
ああん♪美味しいよぉ♪」

二人はパイズリしながら、
一心不乱に俺のチンポを舐めている。

「うおぉっ！気持ちよすぎて・・・
もう限界！」

二人に胸と舌で刺激され、
俺はさっきより短い時間で射精してしまった。

「レロレロ♪団長さんのオチンポミルク♪
凄く美味しいよぉ♪」

「あん♪私も舐めるぅ♪
レロレロ♪
ああん♪この味、病み付きになりそう♪」

二人は俺のチンポに付いているザーメンを
隅々まで舐め取ったw

一時間後
俺はあれから3度射精した。
二人の胸と顔は俺のザーメンで汚れている。
「くうっ！これで最後の射精だ！」
「レロレロ♪ハァハァ♪
団長さんのオチンポミルクぅ♪」
「ハァハァ♪レロレロ♪
ああん♪この味と臭い・・・
私大好きぃ♪」
あん♥
レロ♥
ハァ♥
ハァ♥
レロ♥
ビュルル!!
モミ♥
モミ♥
ベトォ～♥

二人は俺のチンポに付いたザーメンを隅々まで舐め取った。

「ハァ・・・ハァ♪
団長さんのオチンポミルク♪
凄く美味しかったのぉ♪
また2人のときにいっぱい出してくださいね♪」

「ハァ・・・ハァ♪
今度、私だけにご奉仕させてください♪」

2人とも俺のチンポを独り占めしたいようだw
この後3人で昼食をとった。

昼食後、
俺達と分かれてた。
その直後俺とティ○ンサはいつもの岩場に向かった。
俺は気付いていたが、ハリ○は俺達の行動が気になったようで、
気づかれないようにしながら後をつけてきていた。

「じゃあ！ティ○ンサ！
俺の顔の上に跨って！」

水着を脱ぎ、裸のティ○ンサが、
俺の顔の上に跨ってきた。

「はい・・・あぁん♪
団長さんの息が私のオマンコにあたってるぅ♪」

（ウソ！ティ○ンサなんて滑降してるの！
団長さんの顔の上にお尻乗せちゃってるじゃない！）

「じゃあ、ディ○ンサの
レモンティー飲ませてくれ！」
「はい♪今出すね♪んん・・・・♪」
ディ○ンサはおしっこを出し始めた。
「ゴクゴク！ディ○ンサのレモンティー美味しいよ！
レロレロ♪
うおっクサっ！ディ○ンサ四日便秘してるのw」
アナルを舐め始めると、
ディ○ンサは放尿しながら大きなオナラをした w
「あん♪団長さんのエッチ♪
えっと・・・今2日便秘してます／／」
（ウソ！ディ○ンサ！
団長さんにおしっこ飲ませてる！
しかも、あのディ○ンサが人前で
あんな大きなオナラをするなんて・・・）
プリン♥
ブラ～♥
レロ♥
レロ♥
ザバッ♥
ゴク♥ ゴク♥
あん♥

「そこの岩に手を付いてお尻をこっちに向けて、
ティ〇ンケの脱糞を見せてくれ！」
「は、はい♪今から私の
恥ずかしい脱糞姿見てください♪」
ティ〇ンケは俺の言うとおりにした。
俺の目の前には無防備に突き出された、
ティ〇ンケの大きな桃尻が見える。
オマンコもアナルも丸見えだw
「やっぱりこの格好・・・
ちょっと恥ずかしいです／／」
プリッ♡
ドキ♡
ドキ♡

ティ○ンサガキバり始めると、
アナルが大きく捲れ上がり、
大きなオナラと一緒に中から
極太うんちが顔を覗かせ始めた。

「ふん・・・んん♪
あと少しで・・・♪」

「ティ○ンサー！あと少しだ！
がんばってこヒリ出して！」

（ウソ！ティ○ンサー！団長さんが見てる前で、
うんちを出そうとしてるの！）

「アヒィ♪ハァハァ♪
やっとこたぁ♪団長さん見てぇ♪
わたしうんちたよぉ♪」
ディ○ンケは極太うんちをヒリ出し始めた。
「やっぱりろ日便秘したうんちは凄く太いなw
クンカクンカ♪臭いも凄くクサいよw」
「ハァハァ♪あん♪
そんな恥ずかしい事言わないでぇ♪
でも、団長さんに見られながらうんちするの・・・
気持いいのぉ♪」
(ディ○ンケが団長さんの前で、
あんな太いうんちヒリ出してる!でも・・・
凄く気持ちよさそう///)
プリッ♥
ブゥゥ♥
ブリッ♥
ブリッ♥
ブリュリュリュ♥
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥

「団長さん♪うんち出したご褒美ください♪
ハァハァ♪団長さんのオチンポこぇ♪
私のアナルパコパコ突いてほしいのぉ♪」

脱糞が終わると、
ディ○ンサは桃尻をエロく振りながら、
アナルセックスをおねだりしてきたw

「ディ○ンサはホントにアナルセックス大好きだなw
じゃあご褒美にアナルセックスしてあげよう！」

「あん♪団長さんのご褒美アナルセックス
凄く嬉しいですぅ♪」

（ああ、ディ○ンサがあんなにはしたなく
お尻を振っておねだりしてる！）

俺はティ〇ンサのアナルに
チンポをぶち込んだ。入れた直後から、
大量の腸液が溢れて、
チンポの滑りが凄くよくなったw

「あっあっあぁん♪ハァハァ♪
アナルセックス凄く気持いいよぉ♪
私、団長さんと
毎日アナルセックスしたいとすぅ♪」

ティ〇ンサはすっかりアナルセックスの虜だw

「ティ〇ンサのアナル気持ちよすぎて・・・
もう限界だ！」

俺はティ〇ンサの腸内に射精した。

「あん♪お腹の中に
オチンポミルク入ってきてるぅ♪」

（ああ、あんなに気持よさそうに・・・
私もアナルセックスしてみたい／／）

チンポをアナルから引き抜いた直後、
ティ○ンサはまた極太うんちを
勢いよくヒリ出し始めたw

「あっアヒィ♪♪ハァハァ♪
団長さんにザーメン流腸されて、
またうんちでちゃう♪
あん♪おしっこまでてちゃう♪」

「ティ○ンサは極太うんちいっぱい溜め込んでるなw
でも凄くエロいよ♪」

「あん♪恥ずかしい事言わないでぇ／／／
でも、団長さんにうんち見てもらうの
凄く気持いいんですぅ♪」

(あの、ティ○ンサあんなに気持ちよさそうにしてる。
私も団長さんになら見られても／／／)

数日後
今日もティ○ンサの他に
メンバーのハリ○も
プライベートビーチに来ている。
まさかハリ○から裸でしようと
提案してくるとは思わなかった。
なので二人とも裸で、
俺のチンコを挟んで尻コキをしている。
「ああ、二人の生挟尻の感覚が伝わってきて
凄く気持いい！」
「うふふ♪団長さん♪
私達の生尻はどう♪気持いいでしょ♪」
「あは♪団長さんのオチンポから
もう我慢汁が溢れてきてる♪」
ニヲ♥
ニヲ♥
プルン♥
プルン♥
ムギュ♥
ムギュ♥
プリン♥

「団長さん♪私オナラしそうなの♪
もう我慢できないから出すね♪」
ハリ○は豪快にオナラをしだしたw
「ハリ○するい♪私もする♪
団長さんが好きな私のオナラを
オチンポに浴びせてあげる♪」
二人の屁圧尻コキは
とんともなく気持ちよかった。
「うっ、二人の屁圧尻コキ気持よすぎる！
もう我慢できない！」
「あぁん♪団長さんのオチンポミルク♪
ビュルビュルって出てきてる♪」
「あは♪団長さんのオチンポが脈打ってるのが
私のお尻に伝わってきてます♪」
ニコ
ニコ
プルン
プルン
ビュルル!!
ムギュ
ムギュ
ブシュ～
プリン

あん♥
あん♥
「うっ、もう限界ー
二人の尻圧尻コキ気持ちよすぎる！」
俺は二人の尻圧尻コキで
3度目の射精をした。
二人の桃尻は俺のザーメンでベトベトだw
「あのん♪オチンポミルク♪
また出てるぅ♪」
「あん♪団長さんのオチンポミルクで♪
私のお尻いっぱい汚してくださぁい♪」
プルっ♥
プルン♥
ビュルル!!
ムギュ♥
ムギュ♥
ベトォ～♥
プリン♥

「私、もう我慢できない！」
ハリ○は突然俺のチンポを掴んで、
自分のオマンコにあてがい、腰を落とした。
「ああん♪団長さんのオチンポ
気持いいですぅ♪」
ハリ○は気持よさそうにしながら
腰を激しく振っているw
「あん♪団長さんのオチンポ独り占めするなんて
ハリ○ズルい！」
ディ○ンサは目に涙を浮かべながら
ハリ○のほうを見ているw

あんっ
あんっ
「あっあっあんっ♪
ハァハァ♪もう出そうなんでしょう?私のオマンコに、
団長さんのオチンポミルクいっぱい注いでっ」
「もう我慢できない!ハリ○出すよ!」
「あぁん♪団長さんのオチンポミルク
私の子宮に入ってきてますぅ♪」
俺はハリ○の膣内に大量のザーメンを
注ぎ込んだ。
「くすん♪団長さんのオチンポミルク私も欲しい・・・」
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
プリン♥
ドピュ!!
パン♥
パン♥
ベットリ♥

「はあああん♪
気持ちよかったぁ♪」

ハリ○は余韻に浸りながら
俺のチンポを引き抜いた。
その直後、ディ○ンサは
俺のチンポを自分のオマンコにあてがい、
腰を落とした。

「あああん♪待ちに待った団長さんのオチンポ
凄く気持ちいい♪」

ディ○ンサは激しく腰を振っている。

俺はすでに一度射精したのに、
ティ○ンサは激しく腰を振り続けている。
「あっあっあん♪
ハァハァ♪ハリ○のより
私のオマンコのほうが気持ちいいでしょ♪」
「ティ○ンサのオマンコ最高だよ！
また出すよー」
俺はティ○ンサのオマンコに、
2度目の射精をした。
「あぁん♪団長さんのオチンポミルクで、
私の子宮いっぱいになってるのぉ♪」
「うう、団長さんに2回も射精してもらうなんて、
ティ○ンサスルいよぉ」
ハリ○は目に涙を浮かべながら
ティ○ンサを見ている。

「団長さん♪
次は私のアナルに入れてください♪」
先日のディ○ンサとの
行為を覗いていたハリ○は、
その日から毎日ライブ後、
俺にアナルセックスを求めてきたwww
この数日でハリ○は
すっかりアナルセックスの虜だw
「ハリ○ズルい！私も団長さんと
アナルセックスしたいの！」
「じゃあ♪勝負しない！
今からうんちいっぱい出したほうが♪
団長さんにご褒美アナルセックス
してもらうってことでどう♪」
「いいわ♪勝負しましょ！
負けないんだから♪」
「団長さん♪
私達の脱糞勝負見てくださいね♪」
俺の意見も聞かずに、
二人は勝手に脱糞勝負を始めたw
勝負開始の合図と言わんばかりに、
二人は大きなオナラをしたw
ふ、ん!!
ふ、ん!!
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
プルン♥
プルン♥
ムギュ♥
ムギュ♥
ブク～♥
プリン♥

二人はオナラを出し続けながらキバっているw
「ふん!んん♪
もう少しで・・・」
「ふん!んん♪あふん♪
なかなか出てくれない・・・」
二人のアナルが大きく捲れ上がり、
極太うんちが顔を覗かせ始めた。
僅かだが、ティ○ンケのほうが
うんちの出がいいようだw
んん!!
ハァ
ハァ
んん!!
ハァ
ハァ

プリン♥
ブゥ〜♥
プリン♥
ムリ♥
ムリ♥
ベットリ♥
ムリ♥
ムリ♥

「ふん！んん♪
うんち出たぁ♪団長さん♪
私のうんち見てぇ♪」

「ふん！んん♪
うんち出ましたぁ♪団長さん♪
私のふっというんち見てくださぁい♪」

二人ともほぼ同時に、
極太うんちをブリブリとヒリ出し始めた。

二人とも極太うんちをヒリ出し終わった。
二人のアナルは開いたまま
ヒクヒクと動き続けている。
足元には大量の極太うんちが
山のように積まれているw

「ハァハァ♪
どう？団長さん♪
私のほうがいっぱいうんち出てるよね♪」

「ハァハァ♪
団長さん♪
私のほうがいっぱいうんち出してますよね♪」

二人とも同じくらい出したと思う。
しかも、二人のうんちが重なってて、
どちらが多く出したのか厳密に判らないよw」

結局この後、俺は二人に
ご褒美アナルセックスをしたw

一ヶ月後

特別ライブも昨日で終わり、
今日のオフはアイドルメンバー全員で
プライベートビーチに来ている。
もちろんディ○ンサ以外のメンバーも
この一ヶ月間で調教済みだw

「うふふ♪団長さん♪
私からパコパコしてください♪」

「ふふ～ん♪団長さん♪
私からハメハメしてくれるよね♪」

「ほー・・・♪
団長さん♪私から入れて♪」

「団長さん♪
私が一番最初ですよね♪」

「団長さん♪
私のオマンコが最初だよね♪」

全員が桃尻をこちらに向けて、
我先にと俺のチンポをおねだりしてくる

「じゃあ、おしっこを一番多く出した人から順番にオマンコにハメてあげる~」
メンバー全員が俺の提案に了承した。
5人は桃尻をこちらに向けて、一斉に放尿をしだした~
「あん♪団長さん♪私いっぱいおしっこ出てるのぉ♪」
「ふふ~ん♪団長さん♪私おしっこたくさん出てるでしょ~♪」
「ぼー・・・♪団長さん♪私おしっこいっぱい出てるの♪」
「団長さん♪私のおしっこ見てください♪」
「団長さん♪私のおしっこの熱い匂いでしょ~♪」
ぼー
ニコ
ニコ
プシュア
プリン
プリン
プリン

結果は
最後までおしっこをしていた
リナ〇アの勝利となったw
俺はリナ〇アの
オマンコにチンポを挿入した。
「あ～ん♪団長さんのオチンポ♪
気持ちよすぎ～～♪」
他の4人もチンポを
入れて欲しそうにこちらを見ている。
「リナ〇ア！膣内に出すよ！」
「あ～ん♪団長さんのオチンポミルク♪
いっぱい入ってきてる～～♪」
ぅぅ…
ぅぅ…
ぅぅ…
あ～ん♥
プリン♥
プリン♥
プリン♥
パン♥
パン♥
ドプ…!!

次は2番目によくおしっこを出した
ジオ○の
オマンコにチンポを挿入した。
「ごめん♪団長さんのオチンポ♪
奥まで入ってきてる・・・♪」
リナ○アはオマンコから
ザーメンを垂らしながら、
満足そうにしている。
残りの3人はチンポを
入れて欲しそうにこちらを見ている。
「ジオ○！膣内に出すよ！」
「ごめん♪団長さんのオチンポミルク♪
すごくあったかい♪」
あん♥
あん♥
うう…
うう…
プリン♥
プリン♥
プリン♥
パン♥
パン♥
ドプ…!!
ドロ♥

次は3番目によくおしっこを出した
カ○ナの
オマンコにチンポを挿入した。
「あん♪団長さんのオチンポに
突かれて、オマンコきゅんきゅん♪
いってるぅ♪」
膣内出しされた2人はオマンコから
ザーメンを垂らしながら、
満足そうにしている。
「カ○ナ！膣内に出すぞ！」
「あん♪団長さんのオチンポミルク♪
気持ちいいよぉ♪」
「くすん♪団長さん♪
早く入れて欲しいです♪」
「くすん♪団長さん♪
私・・・もう我慢できない♪」
ティ○ンサとハリ○の2人は、
涙ぐみながらこちらを見ている
あんー
ぐすんー
あんー
ぐすんー
あんー
プリンー♥
ドクドクー
ドクドクー
プリンー♥
プリンー♥
パンー
パンー
ドプ…!!

次は4番目によくおしっこを出した
ハリ○の
オマンコにチンポを挿入した。

「あん♪待ちに待った
団長さんのオチンポ♪
凄く気持ちいいですぅ♪」

膣内出しされた3人はオマンコから
ザーメンを垂らしながら、
満足そうにしている。
ディ○ンヤだけ目に涙を浮かべながら、
こちらを見ている。

「ハリ○！膣内に出すよ！」

「ああん♪団長さんのオチンポミルク♪
オマンコから溢れるほど
注がれてます♪」

最後はティ○ンサの
オマンコにチンポを挿入した。

「あん♪待ちに待った
団長さんのオチンポぉ♪
もっと奥までパコパコしてぇ♪」

膣内出しされた4人はオマンコから
ザーメンを垂らしながら、
満足そうにしている。
ティ○ンサは
自分から腰を振って、
俺のピストンに合わせてきている。

「くっティ○ンサの
オマンコ気持ちよすぎ！
もう限界だ！」

「あぁん♪団長さんのオチンポミルク♪
子宮にいっぱい注がれるのぉ♪」

今度はアナルセックスの順番をかけて、
誰が一番クサいオナラをするか
勝負がはじまった。
「あん♪団長さん♪
オナラの臭い嗅いで・・・♪」
「あ～ん♪団長さん♪
私のオナラが一番クサいよね♪」
「あん♪団長さん
一週間便秘してる私のオナラが
一番クサいでしょ♪」
ディ○ンサは自身ありげに言ったw
「あん♪団長さん♪
私だって5日便秘中で、
今オナラが凄くクサいんです♪」
「あん♪団長さん♪
私も3日間便秘してて
オナラクサいんだから♪」
俺は5人のオナラを至近距離で嗅いだ。
「クンカクンカ♪
みんなのオナラとてもクサかったよw
でも、オナラがクサかったのは、
ディ○ンサ・ハリ○
カ○ナ・ジオ○・リナ○ア
の順かな。」
ブゥ～
あん
あん
あん
あん
あん
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～

俺は一番オナラがクサかったディ○ンサのアナルに挿入した。
「ああん♪団長さんのオチンポぉ♪
ハァハァ♪
やっぱりアナルセックス
気持ちいいよぉ♪」
ディ○ンサは
凄く気持ちよさそうに喘いでる。
他の4人は目に涙を浮かべて、
こちらを見ている。
「ハァハァ♪
ディ○ンサアナルに出すよ！」
「ああん♪ハァハァ♪
団長さんのオチンポミルク♪
お腹の中にいっぱい注がれてるぅ♪」
ぐすん
ぐすん
あん
ハァ…ハァ
ぐすん
うう…
プリン
プリン
パン
パン
ドプッ!!
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～
ドロォ～

俺はディ○ンサのアナルに3度射精した。
ディ○ンサの桃尻はザーメン塗れだw
俺はハリ○のアナルに挿入した。
「ああん♪団長さんのオチンポ♪
ハァハァ♪
凄く気持ちいいです♪」
ハリ○は
凄く気持ちよさそうに喘いでる。
まだ入れられてない他の3人は
目に涙を浮かべて、
こちらを見ている。
「ハァハァ♪
ハリ○!アナルに出すよ!」
「ああん♪ハァハァ♪
団長さんのオチンポミルク♪
気持ちよすぎますぅ♪」
ぐすん
あん
あん
ぐすん
うう…
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
プリン
プリン
パン
パン
ドプッ!
ベットリ
ドロォ~
ドロォ~
ドロォ~
ドロォ~

俺はハリ〇のアナルにもう度射精した。
ハリ〇の桃尻はザーメン塗れだw
俺はカ〇ナのアナルに挿入した。
「ああん♪団長さんのオチンポで♪
ハァハァ♪
アナル広がっちゃう♪」
カ〇ナは
凄く気持ちよさそうに喘いでる。
まだ入れられてない他の2人は
目に涙を浮かべて、
こちらを見ている。
「ハァハァ♪
カ〇ナ！アナルに出すよ！」
「ああん♪ハァハァ♪
団長さんのオチンポミルク♪
ドクドク入ってきてるぅ♪」
あん♥
あん♥
あん♥
ぐすん♥
うう…♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
プリン♥
ベットリ♥
ベットリ♥
パッ♥
パッ♥
ドプッ!!
ドロォ～♥
ドロォ～♥
ドロォ～♥
ドロォ～♥

俺はカ○ナのアナルにもう度射精した。
カ○ナの桃尻はザーメン塗れだw
俺はジオ○のアナルに挿入した。
「あああん♪団長さんのオチンポ♪
気持ちいい♪ハァハァ♪
もっと激しく突いて・・・♪」
ジオ○は
凄く気持ちよさそうに喘いでる。
最後まで残ったリナ○アは
目に涙を浮かべて、
こちらを見ている。
「ハァハァ♪
ジオ○ーアナルに出すよー」
「あああん♪ハァハァ♪
団長さんのオチンポミルク♪
腸内にいっぱい注がれてる♪」
あん♥
ぐすん♥
ハァ♥
プリン♥
パン♥
パン♥
ドプッ!!
ドロォ~♥
ベットリ♥

俺はジオ〇のアナルにもう度射精した。
ジオ〇の桃尻はザーメン塗れだw
俺はリナ〇アのアナルに挿入した。
「あぁん♪団長さんのオチンポ♪
すごいよぉ♪ハァハァ♪
気持ちよすぎるの～♪」
リナ〇アは
凄く気持ちよさそうに喘いでいる。
「ハァハァ♪
リナ〇ア！アナルに出すよ！」
「ハァハァ♪
団長さんのオチンポミルク♪
いっぱい注がれてるぅ♪
あぁん♪幸せだよ～♪」
あん♥
あん♥
あん♥
あん♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
プリン♥
プリン♥
ベットリ♥
ベットリ♥
ベットリ♥
ベットリ♥
ドプッ!!
ドロォ～♥

5人全員さのアナルセックスが終わった。
5人の桃尻には俺のザーメンが
ベットリ付着している。
「あぁん♪団長さん♪
ハァハァ♪
うんち出そう・・・♪」
「あん♪ハァハァ♪
団長さんに、ザーメン流膜されて♪
私もうんち出そうなの～♪」
「ハァハァ♪あぁん♪
団長さん♪
私も一週間ぶりに
うんち出そうなのぉ♪」
「ハァハァ♪団長さん♪
私も5日ぶりの、
クサいうんち出そうです♪」
「ハァハァ♪
私も3日間ぶりの
うんちこちゃいそう♪」
5人は一斉にオナラをし始めたw
アナルもヒクヒクとエロく動いている。
「クンカクンカ♪
うおっクサっ！
さっきより一段とクサいよw」
あん♥
ハァ♥
プリン♥
ベットリ♥
ブゥ～♥

5人はうんちをひり出そうと、
がんばってキバっている。
「ふんっ♪ハァハァ♪
あと少し♪」
「んん♪ハァハァ♪
もうちょっとで・・・♪」
「んん・・・ふん♪
ハァハァ♪♪
うんち硬すぎて中々出ないよぉ♪」
「んん♪ハァハァ♪
もう少しでこぞうなのに♪」
「んん♪ハァハァ♪
団長さん♪も少しきっと・・・
今ヒリ出すから♪」
「極太うんちが少し見えてきたよw
5人ともガンバレ！」
5人のアナルは大きく捲れ上がり、
極太うんちが顔を覗かせ始めている。
ふ.ん!!
ん!!
ん!!
ん!!
ん!!
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
ムリ
ムリ
ムリ
ムリ
ムリ
ムリ
プリン
プリン
ベットリ
ベットリ
ベットリ
ベットリ
ブゥ～

5人は極太うんちをヒリ出しながら、
おしっこまでしはじめたw
「ふんっ♪ハァハァ♪
ああん♪団長さん♪
私のうんちとおしっこ見て／／」
「んん♪ハァハァ♪
うんちブリブリでちゃうぅ♪
団長さん♪私の恥ずかしい
脱糞放尿姿見て～♪」
「んん・・・ふん♪
ハァハァ♪♪
硬くてぶっというんちでたぁ♪
団長さん♪一週間便秘した
私の恥ずかしいうんち見てぇ♪
ああん♪気持ちよすぎて
おしっこまでてちゃう♪」
「んん♪ハァハァ♪
うんち出ましたぁ♪
団長さん♪私のはしたない
うんちとおしっこ
見てくださぁい♪」
「んん♪ハァハァ♪
やっとうんち出たぁ♪
団長さん♪
ブリブリ出ちゃうぅうんちと
おしっこ見てぇ♪」
「5人の極太うんちヒリ出す姿、
めちゃくちゃエロいよ♪」
こうして俺の一ヶ月間のバカンスは終わった。
ブリュ リュリュ